

# 今年度の成果と課題

## 1. 問題解決型学習を基本とした授業づくりについて

### (1) 成果

- ・問題設定や指導過程の工夫が様々な実践を通して提案され、課題に対する問いや解決への見通しを持たせる大切さを共感する声が部会員から多く聞かれた。

【実践例】10のまとまりの意識（江別～低学年）

情報の選択（江別～高学年）

日常生活に根ざした場面設定（石狩）

不明確な情報からの推察（北広島・当別）

作図による見通し（千歳） 前時との比較（恵庭）

- ・今年度は、問題解決型学習を基本としながらも技能面に特化した授業の提案もなされた（江別～低学年・恵庭）。昨年度、「考えさせること」と「定着させること」の両立の難しさが課題に挙げられていたが、この点について考える機会が得られたことは貴重だった。

### (2) 課題

- ・問題解決型学習の展開については定着してきた感があるが、技能の習得とのバランスや習熟の時間の確保という点を課題としている部会員も見られた。新学習指導要領で強調されている「数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動の充実」との関わりを検討していく必要がある。

## 2. 言語活動の充実について

### (1) 成果

- ・意図を明確にした集団検討場面の設定により、課題解決への考え方がよりよいものへ洗練されていく実践を見ることができた。子どもの考えの中には誤った部分や余計な部分、足りない部分などが含まれている場合もある。それらが集団検討を通して淘汰されたり修正されたり、補足されたりすることで、より深い学びへとつなげることができた。

【実践例】リレーのように繰り返し説明（北広島）

「自力→共同→自力」のパターン化・算数用語の活用（千歳）

### (2) 課題

- ・各市町村で工夫され、具体的な実践が取り組まれるようになってきたが、「子どもからいかに考えを引き出し整理していくか」という指導者側のおさえをどのようにすべきか検討の余地がある。
- ・互いの考えを深めたり、補完したりするものになっているかという点について、洗練された討議になっていたかどうかをどのように見とっていくのか（評価方法）については引き続き課題が残る。